

自衛隊

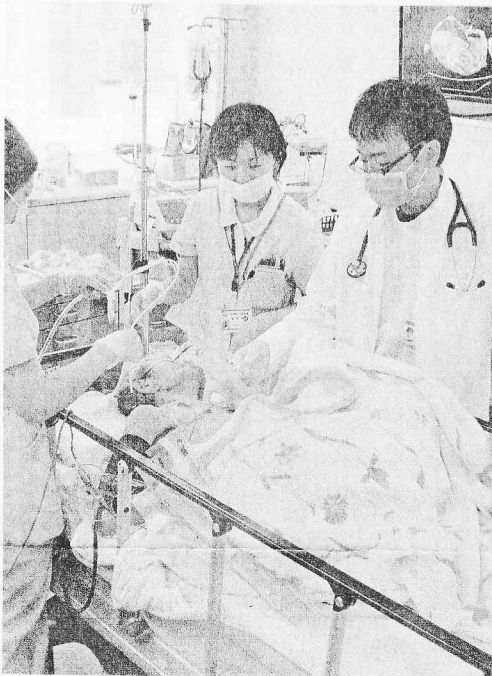
津波で崩壊した家屋のがれきをパワーショベルで撤去する陸上自衛隊三軒屋駐屯地の隊員ら。今も遺体が見つかることがある＝岩手県山田町



活動する岡山の支援チーム

医師ら

肺炎で救命救急センターに運び込まれた被災者を診察する岡山大病院の医師ら。長引く避難生活で持病が悪化した高齢者が目立つ＝岩手県立大船渡病院



被災者のため



保健師

避難所に身を寄せる被災者に声を掛け、健康状態を確認する岡山県の保健師チーム。雑談にもじっくり耳を傾け、心を癒やすことを心掛ける＝岩手県大船渡市

東日本大震災

東日本大震災の被災地では、岡山県の支援チームが活動している。派遣から1カ月が過ぎたチームの現状を紹介する。

(藤岡慎吾、高下修)

陸上自衛隊三軒屋駐屯地（岡山市北区宿）からは隊員約70人が、岩手県の宮古市と山田町で活動する。重機やダンプ計14台で、海岸線30キロのがれき撤去、行方不明者の捜索に当たる。

隊員は大震災翌日の3月12日に岡山を出発し、一度も帰っていない。早朝から日没までパワーショベルでがれきをダンプカーに積み込む。終わりは見当もつかない。

岩手県大船渡市では、岡山大病院や岡山県の手配した医師、保健師、看護師らが公立病院や避難所に入り、急患対応や避難者の巡回診療に当たる。

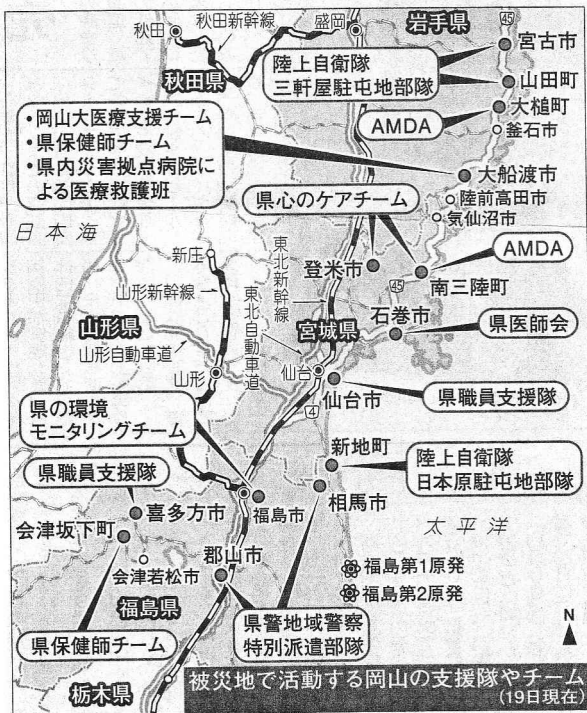
県立大船渡病院の救命救急センターに入った岡山大病院の谷口暁彦医師(35)は高血圧

や糖尿病患者の増加に不安を募らせる。「生活習慣病は食事や運動の影響を受ける。避難所生活で気を付けるのは難しい」

岡山県精神科医療センターは宮城県南三陸町へ心のケアチームを送っている。強気な人さえ津波を思い出し、不眠を訴える。

大船渡市の被災者からは、近所で亡くなった二十数人の大半がお年寄りと聞かされた。災害は、弱者に一層厳しく襲いかかる。

国際医療ボランティアAMD Aは岩手県大槌町や宮城県南三陸町で避難者診療に、県警地域警察特別派遣部隊は原発に近い福島県の相馬、郡山市で治安維持に当たる。県環境モニタリングチームは福島市で活動している。



心のケア

地元の保健師（左）と意見交換する岡山県精神科医療センターの心のケアチーム。リーダーの来住由樹医師（左から2人目）は被災者の心身の疲弊を懸念する＝宮城県南三陸町

